

<第 83 回 HSE セミナー 講演内容>

■テーマ：「クオールが提案する『QOLサポート薬局』の展開について」

■講師：岡村 章二 氏（クオール株式会社 専務取締役）

健康サポート薬局の開始に伴い、いち早く行動を起こしたのがクオールである。いままでもコンビニエンスストアとの併設や、駅中などの商業施設への出店と、積極的なアクションを起こしてきた。そんなクオールが満を持して出店したのが「QOL サポートクオール薬局京王八王子店」である。現時点では報酬上の評価はされない健康サポート薬局ではあるが、国の目指す薬局の姿に「処方せん薬局」からの転換が求められる以上、次を求めて行動を起こすしかない。2025 年を見据えた次世代モデルの薬局作りが、どんなコンセプトで出来上がったのかを聞いてみたいと思う。

<講師紹介>

昭和 33 年生まれ。昭和 55 年、日本大学理工学部薬学科卒業後、同年 4 月株式会社マツモトキヨシ入社。昭和 57 年、薬日本堂株式会社に入社。平成 10 年 12 月、クオール株式会社に入社。埼玉支店長を経て平成 16 年に執行役員、翌年には薬局支援本部長、取締役に就任。平成 19 年に常務取締役、その後薬局事業本部長、経営企画部長を経て平成 22 年に専務取締役に就任。

■テーマ：「2025 年に向けた竹田総合病院の取組み」

■講師：東瀬 多美夫 氏（竹田健康財団竹田総合病院 法人事務局長代理兼経営企画部長）

地域医療構想の策定がおおむね今年度を持って終わる。この構想によって病床の適正配置が今後進められるわけだが、私たちの業界にとっても大きなターニングポイントになることは言うまでもない。「病院完結型から地域完結型へ」といわれるように、ますます厳しい「自宅復帰率」の目標が設定される。そうなると、在宅医療が賑わいだすことになる。これから起こる病院大改革について、北関東を代表する病院の事務長に直接聞いてみたいと思う。医科の情報を知らずに薬局経営は成り立たない。本当に門前の景色が変わるのか。そんな予想も聞いてみたいと思う。

<講師紹介>

日本医療病院管理学会所属。昭和 61 年専修大学卒業。2006 年厚生労働省国立医療病院管理研究所専攻科修了。医事・総務・人事・企画業務を担当し、現在に至る。

《一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院》

昭和 3 年開業（竹田内科医院）の福島県会津若松市にある医療機関。一般財団法人竹田健康財団が運営する病院である。地域医療支援病院の承認を受けるほか、地域周産期母子医療センターとして会津地方の周産期医療を担う。そのほかに、地域がん診療連携拠点病院、エイズ治療拠点病院、臨床研修指定病院などの指定を受ける。許可病床数 837 床、7 対 1 入院病床 555 床。常勤医師数 106 名（歯科医師含む）、看護師 669 名と北関東の中核を担う病院である。

■テーマ：「最近の薬局経営における人事労務問題の傾向と対策」

～人材確保・定着・問題職員対策等～

■講師：服部 英治 氏（株式会社名南経営コンサルティング 主任研究員 社会保険労務士）

薬剤師不足といわれる今日、多くの経営者から「人事・労務」に関する相談が後を絶たない。そんな中で出てきた、基準調剤加算算定に必須な人的要件がある。今回の改定では「勤務年数」がネックとなり、経営者と従業員との確執を生んでいるという話も聞く。「事件は現場で…」ではないが、会社の方針と違う現場の運営や、従業員同士のトラブルなど問題を挙げるとキリがない。今回は日経ヘルスケアでお馴染みの講師に医療機関におけるトラブル対策をきいてみたいと思う。さらに、悩みの種の一つである「綺麗に従業員を卒業させるには」も聞いてみたいと思う。人材不足はまだまだ続く。労使が納得のいく仕組み作りが会社に必要になる。

<講師紹介>

大学卒業後、大手社会保険労務士事務所を経て 1999 年株式会社名南経営に入社名南コンサルティングネットワークのトップコンサルタントの一人として、全国各地で医療機関・福祉施設を中心に人事制度改定支援、職場の風土改善、各種人事労務相談等に応じている。特に医療機関・福祉施設に対してはこれまで約 200 以上の施設に対しての人事制度改定等を行ってきており、様々なノウハウが蓄積されている。現在、日経 BP 社「日経ヘルスケア」において「経営者のための人事労務入門」を毎号好評連載中（平成 28 年 11 月現在で連載 143 回目）。著書多数。